

# 降雨によるたまねぎの病害に注意しましょう

令和4(2022)年4月28日  
芳賀農業振興事務所

気象庁1か月予報によると、5月下旬までの1か月間の降水量は、平年より多くなる見込みです。特に中生～晩生品種のたまねぎ圃場では、今後の降雨が多いと腐敗の原因となる菌や細菌が多く増え、収穫～乾燥時にたまねぎの腐敗が懸念されます。薬剤散布により腐敗を予防しましょう。

## 1. りん片腐敗病

左写真のように、たまねぎの中間葉が枯死する症状がみられる。縦に割ると内部が腐敗している(右写真)。

### 対処

①感染を広げないために薬剤散布を行う。

りん片腐敗病の薬剤例：

スクレタン水和剤

コサイド3000(予防剤)

②アザミウマの食害がみられる場合は、アザミウマの防除も行う(りん片腐敗病の原因となる細菌は、アザミウマの食害痕上で増殖しやすいため)。

アザミウマ類の薬剤例：トクチオン乳剤

ファインセーブフロアブル



## 2. 灰色腐敗病

収穫前に圃場で長期間雨にあたっていた場合に発生しやすい。乾燥～調製中に、灰色～黒色のかびが発生する。

### 対処

収穫前に降雨が多くなりそうな場合は、殺菌剤を散布し、腐敗を予防する。

灰色腐敗病の薬剤例：カンタスドライフロアブル

ファンタジスタ顆粒水和剤

